

「氏姓」に残された日本古代の実態を解明！  
戦後に華族制度が廃止されるまで日本人の  
出自意識に影響を与えた氏姓の根源を探る

# 日本古代の氏姓制

とも かず  
中村 友一 著

博士（史学・明治大学）

2009年5月刊行予定！ 定価 10,290円（本体 9,800円＋税 5%）

A5判・上製本・貼函入・336頁（予定） ISBN978-4-8406-2036-9 C3021 ¥9800E

現在の名字にも繋がる「氏姓」は、天皇（大王）により皇族・  
賤せん以外の全ての人々に与えられた。中国の皇帝や朝鮮の王と  
は異なり、日本の天皇は「氏姓」をもたなかった。本書はこ  
の「氏姓制」が6世紀初頭に成立した日本独自の制度であり、  
天皇が氏姓を賜い奪うことで、古代を通じて公民を支配した  
軌跡をたどる。氏姓研究の最先端を伝えるコラム3本を付す。

【本書を推薦します】

## 眼光鋭く氏姓しせいの起源に迫る

明治大学教授 吉村 武彦

現在の多くの氏名しめいは、名字であるが、古代には大伴氏おおともや物部氏ものべのように、自らの職  
掌を氏名（ウヂナ）とする氏族がいた。大伴の場合は、「トモ」として王宮に出仕し、  
舎人とねり・靱負ゆげいなどの政事や軍事の職務で、天皇に仕え奉る氏族集団である。大伴家持おおとものやかもちは、  
「祖の名断つな 大伴おおともの氏うじと名なに負おへる ますらをの伴とも」という「族を喩す歌」を『万  
葉集』に残している。

本書は、このような名負氏なおいのうじの問題の根源を解き明かそうとする著作であり、氏（ウヂ）  
の本質に迫る力作である。日本独自の慣習法として氏姓を捉える考察は、5世紀後半  
から10世紀半ばに及び、氏姓制の成立・展開・変容のプロセスを分析する著者の眼  
光は鋭く、古代史研究と氏姓の研究に大きな一石を投ずる研究である。

八木書店

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8

Tel:03-3291-2961 / Fax:03-3291-6300 pub@books-yagi.co.jp <http://www.books-yagi.co.jp>

# 目次

はじめに

## 序章 氏姓制の問題意識と用語の定義

一 総合的な課題と用語の定義／二 構成と個別の課題

## 第一章 「氏姓」の成立とその契機

一 研究史と問題の所在／二 日本側史料に見る氏姓成立の時期／三 中国側史料に見る氏姓成立の時期／四 氏姓成立の契機／小 結

## 第二章 律令制前の政事構造と氏

一 問題の所在／二 律令制下の君臣関係／三 「名負氏」と「仕奉」に見る政事構造／四 姓の性格—(山) 君姓を中心に—／五 氏姓の特徴／小 結

〔コラム〕出土文字史料と氏姓制

## 第三章 律令制導入前と律令制下の氏姓制

一 氏姓制の推移と問題の所在／二 氏姓制の整備過程／三 養老令制と氏姓制／四 大宝・養老継嗣令文の復原／小 結

## 第四章 賜氏姓・改賜氏姓から見る氏姓制

一 問題の所在と分析視角／二 改賜氏姓事由による類型化／三 改賜氏姓の時期的変遷／四 氏族側から見る改賜氏姓／五 古代天皇権の性格とのかかわり／小 結

〔コラム〕武士や大名も意識していた氏姓

## 第五章 平安時代前半の氏姓制

一 問題の所在と本章の検討史料の性格／二 『姓氏録』の編纂と氏族／三 同祖同族関係の成立と管理／四 『延喜式』から見る平安時代前期の氏姓制／小 結

〔コラム〕華族制度と家名(苗字・名字)

## 終章・索引

### ■氏姓制とは

撰関時代に藤原氏の全盛時代を築いた人物に藤原道長がいる。望月の歌を詠んだことでも有名だが、藤原道長は「朝臣(あそみ)」の姓(カバネ)を有していた。

「名前」を分解してみると、藤原(ウヂ)朝臣(カバネ)道長(個人名)となる(右図参照)。

氏(ウヂ)は職掌や地名から付けられることが多く、その氏族の性格を表した。これを「名負氏(なおいのうじ)」というが、中国や朝鮮には見られない日本独自の制度だった。

一方、姓(カバネ)は氏(ウヂ)の職掌・出自・本拠地・格などを総合して、天皇の裁量により与えられた。

具体的に次の例から理解してみよう。

「津守連大海(つもりむらじおおあま)」という人物が飛鳥時代にいた。ウヂが「津守」とあることから、水上交通の要衝、とりわけ津の管掌を行っていたことがわかる。そこから派生した職掌として、対外関係に従事する性格があるようである。

姓(カバネ)は「連(むらじ)」。カバネは名負氏の性格によって与えられる種類が分けられたが、「連」は職業的部とよばれる集団を率いる統率者(伴造、とものみやつこ)に与えられた。ウヂに地名を負う「臣(おみ)」というカバネに対して、「連」はウヂに職業名を負うことが多い。

津 <sup>〔ウヂ〕</sup> 守 <sup>〔カバネ〕</sup>	藤 <sup>〔ウヂ〕</sup> 原 <sup>〔カバネ〕</sup>
連 <sup>〔カバネ〕</sup>	朝 <sup>〔カバネ〕</sup> 臣 <sup>〔カバネ〕</sup>
大 <sup>〔個人名〕</sup> 海 <sup>〔個人名〕</sup>	道 <sup>〔個人名〕</sup> 長 <sup>〔個人名〕</sup>